



とちぎメディカルセンター  
とちのき

ここが  
すごい!

リハビリテーションセンター

# その① スタッフがすごい!!

※ 2024年度 実績



## ◎ 所属団体

- ・日本理学療法士協会
- ・日本作業療法士協会
- ・日本言語聴覚士協会
- ・日本ハンドセラピィ学会
- ・日本褥瘡学会

## ◎ 実習生受け入れ状況

- ・国際医療福祉大学
- ・マロニエ医療福祉専門学校
- ・群馬パース大学
- ・太田医療技術専門学校
- ・つくば国際大学
- ・日本保健医療大学
- ・城西国際大学

## ◎ 資格・認定・修了

- ・臨床実習指導者講習会【厚生労働省指定】  
(理学療法士、および作業療法士)
- ・糖尿病療養指導士【日本糖尿病療養指導士認定機構】
- ・ロコモアドバイザーとちぎ【栃木県】
- ・とちぎフレイル予防アドバイザー【栃木県】
- ・福祉住環境コーディネーター【東京商工会議所】
- ・介護予防推進リーダー【栃木県リハビリテーション専門職協会】
- ・地域ケア会議推進リーダー【栃木県リハビリテーション専門職協会】
- ・川平先端リハラボ 入門講座・中上級講座【促通反復療法研究所】
- ・霧島リハビリテーションセンター研修(1週間・2週間)【鹿児島大学】

## ◎ 出身校一覧

- ・秋田大学
  - ・太田医療技術専門学校
  - ・群馬医療福祉大学
  - ・国際医療福祉大学
  - ・埼玉医科大学短期大学(現:埼玉医科大学)
  - ・城西国際大学
  - ・西武学園医学技術専門学校
  - ・専門学校医学アカデミー
  - ・専門学校東京医療学院
  - ・専門学校東都リハビリテーション学院
  - ・高崎健康福祉大学
  - ・つくば国際大学
  - ・帝京科学大学
  - ・人間総合科学大学
  - ・マロニエ医療福祉専門学校
  - ・山形医療技術専門学校
- (五十音順)

## ◎ 院外活動

- ・栃木県理学療法士会 代議員
- ・栃木県作業療法士会 理事
- ・栃木県作業療法士会 各部委員会活動



## その② 教育体制がすごい!!

### ◎ スーパーバイザー制度 (OJT: On the Job Training)

当院への新入職員は、配属当日より担当指導者の元、様々な指導を受けます。

社会人として医療業界に初めて飛び込む訳ですから、何かと不安があるでしょう。担当指導者は、臨床における評価や治療技術だけでなく、接遇や社会人としての立ち居振る舞いまで、将来の医療を担う人財を育てるため、マン・ツー・マンで指導します。

その指導内容は、とちぎメディカルセンター リハビリテーションセンターが、独自に策定した新人教育プログラムに基づき、実際の現場を通して行っています。

なお、担当指導者は、当院リハビリテーションセンター役職者会議において推挙され、リハビリテーションセンター管理者 (リハビリテーション室 室長) に任命された者となっています。

### ◎ 新人教育プログラム

とちぎメディカルセンター リハビリテーションセンターでは、系列病院・系列施設のどこに配属されても同一の指導が受けられ、同程度の臨床レベルと社会性が身に着けられるよう独自の教育プログラムを策定しています。

プログラムは以下の3点から成り立ちます。

- ① 新人教育・指導のベース 『**新人教育マニュアル**』
- ② 獲得すべき項目と達成度合いがわかる 『**新人達成度チェックリスト**』
- ③ これまで学んだことを医師・先輩療法士に伝える 『**新人症例発表会**』

これらを3年間目安に習得していきます。新人教育プログラム修了後は、後輩育成や業務改善、専門分野への昇華、研究活動等、様々な活動を期待される人財となれるよう期待して指導を行います。



## その③ 連携がすごい!!

### ◎ 栄養ケアとリハビリテーション

リハビリテーションの成果や効果を高めるためには、最適な栄養管理は欠かせません。

リハビリの対象となる障害者・高齢者には、低栄養状態の方は少なくありません。低栄養状態で、筋肉量増加を目指したリハビリ(レジスタンストレーニング等)は、かえって悪影響を及ぼしかねません。そこで、当院では管理栄養士と協力して、リハビリテーション栄養(リハ栄養)に取り組んでいます。リハ栄養とは、患者さんの栄養状態も含めて、国際生活機能分類(ICF)に基づいて評価を行った上で、障害者や高齢者の機能、活動、参加を最大限発揮できるような栄養管理を行うことです。

より効果的なリハビリテーションを行うために、栄養状態を評価し、必要な栄養成分を選択。最適なタイミングで栄養素を摂取できるようにリハビリスタッフと協力して実践しています。

### ◎ リハビリスタッフと管理栄養士

食べることは、生活においてとても大きな意味を持ちます。ただ栄養を体に取り入れるだけではなく、味を楽しむこと、人とコミュニケーションを楽しむことでもあり、人生を豊かにするために食事は欠かせません。

言語聴覚士は、嚥下状態を評価し、適切な食形態を選択します。場合によって、医師の指示のもと、VF(嚥下造影検査)を行い安全に食事が摂れるよう進めています。作業療法士は、適切な姿勢と上肢機能を評価し、自分で食事が摂れるよう食器や自助具の選定を行います。そして、管理栄養士が栄養状態を評価し、美味しい食事の提供と適切な食事量を提供します。

各職種がお互いに協力し合い、患者さんの生活の質向上に寄与しています。



## その④ メッセージがすごい!!

### 経験2年目 作業療法士



入職した当初は社会人として初めての仕事。不安でいっぱいでした。

入職してから3年間はスーパーバイザーがついて、臨床や業務内容の指導・相談に乗っていただけます。初めは戸惑うことも多かったのですが、先輩方がアドバイスして下さるため、その都度不安を解消していくことができました。また、日々の業務が負担にならないように、状況に応じて業務内容を調整していただけることもあり、職員の健康にも配慮された職場だと感じています。業務外の自己学習は欠かせませんが、各々に合った働き方を見つけることができると思います。

### 経験5年目 言語聴覚士

当院のリハビリテーションセンターでは、急性期から回復期、慢性期に至る各期でリハビリを行っています。私は言語聴覚士として入職し、3年間の新人教育プログラムを通して社会人及び病院職員としてのマナーを学び、リハビリ専門職として必要な臨床技能を学びました。

新人教育プログラム修了後は、言語・嚥下・高次脳機能を自主的に勉強する習慣が身に付きました。また、働きやすい魅力として仕事と趣味の両立ができます。日々の業務改善によりプライベートが充実することで仕事へのモチベーションが上がっていると実感しています。



### 経験14年 理学療法士

当センターにおいて、私は療養病棟、緩和ケア病棟を主として担当しております。

療養病棟では食事や移動が自立できなく、生活のほとんどに介助を要する方が多いです。リハビリでは寝たきりを予防するために、身体の運動や車椅子による離床、身体が自由に動かない方に対してはクッションを使用し、安楽な姿勢が取れるよう努めています。緩和ケア病棟では、疼痛の緩和や浮腫の軽減の他、患者さんの意思を尊重できるような関わりを心掛けています。

患者さんや家族の希望を伺い、現在の身体能力を最大限に活かして、患者さん自身でできることが増えると嬉しく思います。

